糞土師降臨

前川 啓二

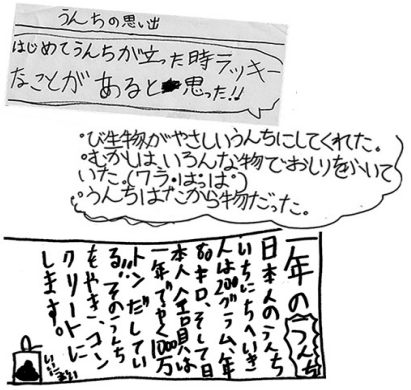
国連が音頭を取る SDGs（持続可能な開発目標）の推進が各自治体で叫ばれている。「江戸川区子ども未来館」なる自然科学教育施設でも SDGs の 17 のグローバル目標のうち#６「安全な水とトイレを世界中に」をテーマに講座を組み、講師の「人糞地理学者」とともに糞土師・伊沢正名さんがゲストとして来館された。

右側が伊沢さん。左側の人糞地理学者（法政大学・湯澤規子教授）の服のプリント柄に注意。

伊沢さんといえば「広角できのこ中心に背景の野外環境を写しこみ、深度深く撮る」作法で「一世を風靡」した高名な写真家であり、きのこ関連の図鑑にほぼ必ず名を連ねられている。

今回は「もう写真家は引退しましたから」と明言され、からだによいのは食べるより出すこと、野グソが地球を救う、の確固たる信念を小学生に諄々と説かれた。小学生にとってこれをパラダイムシフトと言わずしてなんと言おう。なにしろ 1974 年から講座当日の朝（2021 年 1 月 24 日）まで通算 15174 回も野グソを実践され、さらに、自宅周辺に野グソランド（仮称）をオープンしてすべての人に機会を提供するそうである。ただ、本人以外がそこを歩くのは地雷原に踏み込むより勇気がいるのではなかろうか。

小学生たちがつぶやいた赤裸々な感想は法政大学人間環境学部の研究資料になって成仏するらしい。ありがたいことである。



小学生の感想

伊沢さんがこれからもますます SNGs、「持続可能な野グソ目標」に邁進されることを願ってやまずにはいられない。

参考：吹春俊光　2019.「博物館ときのこ 30 年」千葉菌類談話会通信 35 号